

# より良い教育活動を行うための学校評価の活発な活用

私学ならではの教育プログラムを生かすために

宇野美和（大阪成蹊女子高等学校）

## 1. はじめに

本校はキャリア特進・美術イラストアニメーション・幼児教育・スポーツ・キャリア進学 コースの5つのコースがあり、それぞれに独自のカリキュラムが整っている。また、女子に特化したキャリア教育や併設大学・短大との高大連携授業も多く行われ、本校ならではの教育プログラムが整っており、学年間よりもコース間の繋がりが強い学校の体制になっている。そのため学校評価アンケートの集計や分析はコース毎に行ってきた。表1のとおり、今年で学校評価アンケートの実施7年目に入るが、アンケートの対象は本校在学の生徒と保護者に留まってきた。そもそも学校評価とは「保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする。」（学校教育法 第34条より）で示されるよう、学校を取り巻く様々な立場の人々から意見を収集し、総合的 school 評価をする必要がある。そのため、表2の様な従来の実施方法とは異なり、今年度は地域住民の方々やオープンスクールに訪れた中学生の保護者にもアンケートを実施した。

表1.本校の学校評価に関する沿革

実施年月日	関連事項
平成22年1月	第1回学校評価アンケート実施(対象：在校生徒・保護者)
平成25年5月	学校HPにて結果を公開
平成26年11月～27年1月	学校評価アンケートの対象を拡大して実施 (対象：在校生徒・保護者・地域住民・入学前保護者)

表2. 昨年度までの学校評価に関する流れ

実施時期	関連事項
12月	生徒対象のアンケート内容の検討
翌年1月	生徒・保護者対象にアンケートの実施
翌年3月	学校評議会にてアンケート結果の公表・意見を集約

## 2. 今年度の実施方法と考察

### 2.1 実施方法

今年度はアンケートを在校生とその保護者だけでなく、地域住民の方々や入学前の保護者も対象に行った。これは本校生徒が学校近隣の地域から通学する生徒が多いということと、入学前の保護者の考え方や学校に期待することを理解することで、今後の学校運営の資料として、学校の更なる発展につなげることができると考えたからである。

また、アンケートの対象に応じて、アンケート内容や回答形式を変更した。回答者が地域住民の場合はマークシートでなく、アンケート用紙に選択肢を書き込む方法を取り、自由記述欄を設けた。オープンスクールに来校された保護者、在校生徒とその保護者を対象としたアンケートは人数の多さから、回答形式はマークシートという手段をとった。そして、今年から全てのアンケートにおいて、回答の選択肢を昨年度の「大変満足している・満足している・あまり満足していない・満足していない・わからない」の5段階から、曖昧さをなくするために「全く思わない・少しは思う・確かにそう思う・非常にそう思う」の4段階とし、質問項目数も減らした。質問内容に関してもコース会議で話し合い、精選した。アンケートの処理にあたっては、昨年度まで各クラス担任が記入された回答用紙を見ながらパソコンに入力していたため、手間もかかり、ミスも多かったと考えられる。しかし一方で、クラス担任が回答内容を自然と目にし、現状を把握する機会をなくしまった可能性もあると感じている。以上のような変更点を含め、今年度の学校評価アンケートに関する1年間の流れを表3に示す。

表3.今年度学校評価に関する流れ

※太字は今年度から実施

実施時期	関連事項
平成 26 年 4 月	平成 25 年度のアンケート結果を職員会議で公表
7 月	学校長と前年度結果に関して話し合い、次年度実施方法や結果の周知方法を検討
平成 26 年 10 月	オープンスクール来校生徒の保護者対象アンケートの質問内容を検討
平成 26 年 11 月	●オープンスクールで保護者対象アンケートの実施 ●地域住民の方々対象アンケートの質問内容を検討
平成 26 年 12 月	地域住民の方々対象にアンケートを実施
平成 27 年 1 月	●生徒対象アンケートの内容を検討 ●在校生徒・保護者対象にアンケートを実施
平成 27 年 2 月	コース主任にアンケート結果の公表を行い、考察と結果に対する対策を立てることを依頼
平成 27 年 3 月	学校評議会にてアンケート結果の公表・意見を集約

## 2.2 アンケートの内容

以下、いずれのアンケートに関しても、「全く思わない(1点)・少しは思う(2点)・確かにそう思う(3点)・非常にそう思う(4点)」の4点満点の4段階で回答する形式で実施した。

- オープンスクール来校保護者

質問内容は「学校の特色・学校行事・クラブ活動・学習指導・生活指導」といった内容に関して8項目で実施した。

- 地域住民の方々

「学校に対するイメージ・交流の機会」に関すること、「家族や親戚に本校出身または併設大学・短大の出身者がいるかどうか」といった質問内容で実施した。

- 在校生徒・その保護者

生徒に対しては「学校の特色」・「授業内容、カリキュラム」・「教師の生徒に対する対応」・「進路指導」・「行事、部活」に関して20項目で実施した。

保護者に対しては「学習指導、教育体制」・「進路指導、教科指導、生徒対応」・「特別活動」・

「生徒、保護者への対応」・「本校への満足度」に関して 20 項目で実施した。

### 2.3 アンケート結果と考察

#### ● オープンスクール来校保護者

一番評価の高い項目は「特色ある学校という印象を受ける」・「各コースに特色を感じる」・「併設大学・短大との連携が強い」の 3 項目であり、いずれも図 1 の様に 99%が特色があると感じ、併設大学・短大との連携の強さを感じているようだ。一番評価の低い項目は「クラブ活動が盛んである」で、90%が盛んであると感じているようだ。

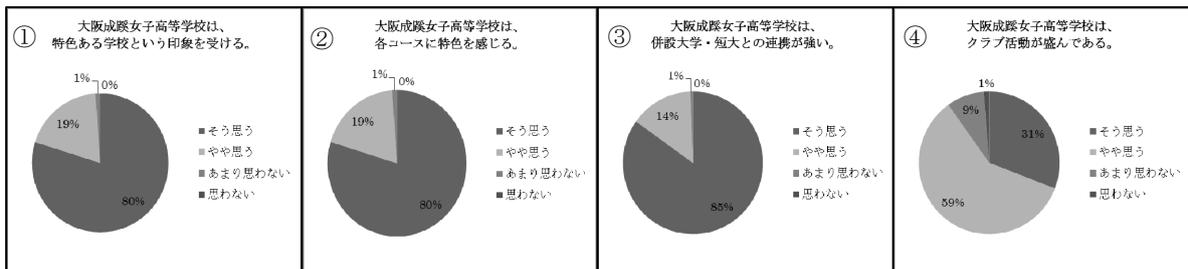


図1.アンケート結果(オープンスクール参加保護者 164 人からの回答)

①～③：評価の高い項目 ④：評価の低い項目

#### ● 地域住民の方々

「特色ある学校という印象を受ける」という項目に対しては 50%程がそう思うと回答し、「女子高ならではの良さを感じる」という項目に対しては 80%程がそう思うと回答している。この点は学校外部の第 3 者から見ると、特色ある学校というイメージよりも女子に特化した学校というイメージの方が強いと理解できる。また、「家族や親戚に卒業生または生徒がいる」と回答した人の 99%が家族や親戚に本校を勧めたいと思っているとの結果も得ることができた。

#### ● 在校生徒・その保護者

各コースの保護者と生徒、そして本校の保護者全体と生徒全体に関して、図 2 の様に回答を集計し、分析を行った。これに昨年度の分析結果を加えた形で各コース主任に配布し、考察とそのことに対する対策を立ててもらった。また図 3 の様にコース間比較も行った。

保護者に関しては各コース、学校全体共に「学校には他にない良い特色がある」、「この学校に入学させてよかった(知り合いや親戚にもこの学校を勧めたい)と思う」、「生徒は学校生活を楽しく、充実していると感じている」と質問項目に対し 90%程がそう思うと感じており、高い評価を受けている。これはオープンスクール来校者保護者の回答結果と重なる部分であり、学校の特色の良さが本当に評価されていると捉えることができる。その反面「わかりやすく教え方を工夫している先生が多い」、「授業参観や懇談会は適切な頻度で行なわれており、学校の様子を知る機会がある」といった質問項目に対しては 60～70%がそう思うと回答しており、他に比較して低い評価となっているため、教科指導や保護者懇談会の機会を設けるといったことに今後は力を入れていく必要があると考えられる。生徒に関しては各コース、学校全体共に「将来の進路に向けた体験活動などコース独自の取組みが充実している」、「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」という質問項目に対して 80%程度がそう思うと回答し、本校のキャリア教育に対してある一定の評価を得ていると考

えられる。一方で「生徒会活動に関心を持ち、積極的に生徒会の活動に参加している」という質問項目に関しては、そう思うとの回答が35%に留まり、毎年のことであるが評価が低い。しかし、このことは生徒会活動が行事の執行部の活動のみをさすと生徒が勘違いをしているのではとの教員の意見も多く、今後質問文の表現の仕方を検討する必要があると思われる。

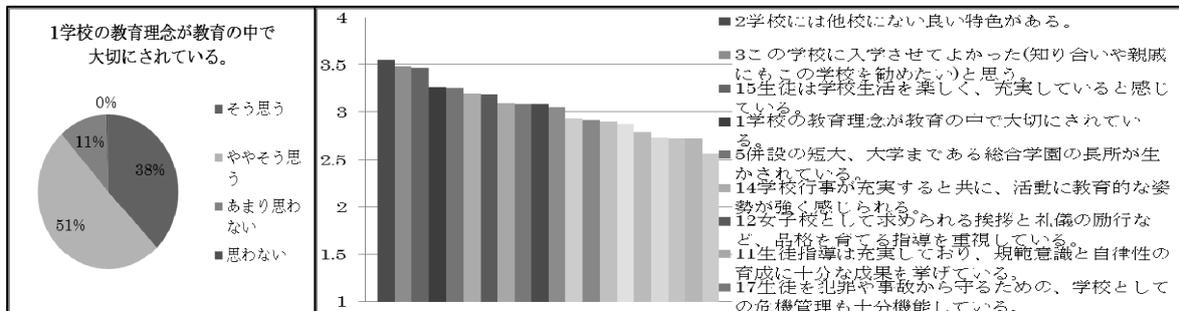


図2.美術コース 保護者のアンケート結果(美術コース 保護者 233 人中 220 人が回答)※右グラフ質問項目一部省略

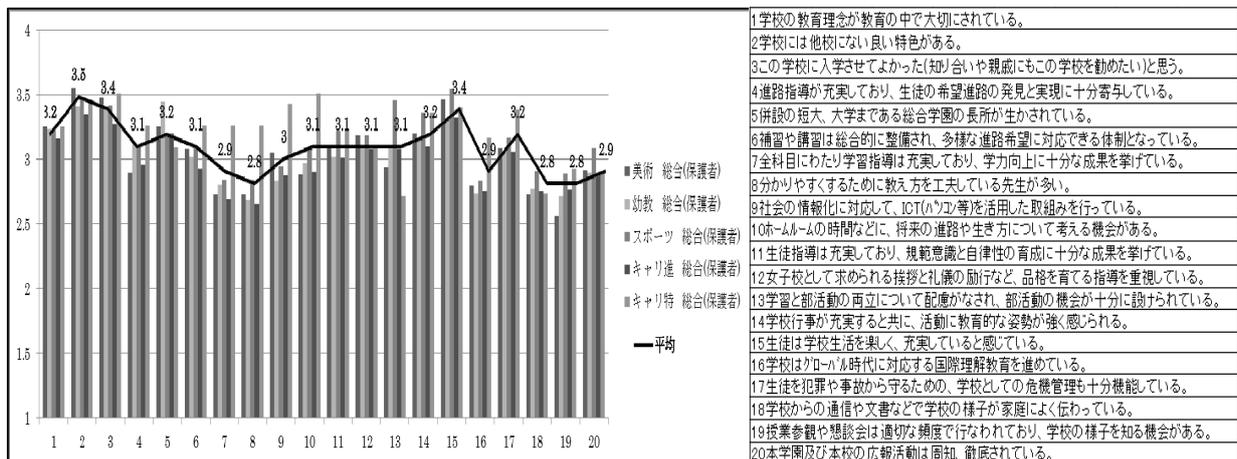


図3.コース間比較・学校全体の保護者アンケート結果(保護者 1434 人中 1250 人が回答)

### 3. まとめ

在校生とその保護者以外に、今年度から将来本校の保護者となる可能性のある人々、地域の人々(実際にはこの中の多くの方が本校の卒業生を家族や親戚にもっていた)を対象にアンケートを実施し、本校に対するイメージや期待するもの等を把握することができたように感じる。この部分の評価に関する正しい理解が、本校のより良い教育活動へと繋がり、本校の発展にもつながると考える。また、アンケート結果の活用先(進路指導部や募集広報部など)への周知方法も考えていく必要がある。アンケート結果の量と配分場所がアンケートを活用するキーとなるのは間違いないであろう。それらをスムーズに行うためにも、アンケートの処理に関しては google のポータルサイトなどを利用し、時間短縮や手間の簡略化を図る必要がある。そしてなにより、保護者や生徒が学校に求めているものは何かを発掘し、それに対して私学ならではの、本校ならではのアプローチをするために活用してゆく必要があると強く感じている。